

「会いたかった」

—初稿—

2026/8/10

雨森 れに

〈人物表〉

城谷圭史しろたに けいし

(35)

暴力団構成員

西川奏美にしかわ かなみ

(32)

圭史の元恋人

西川涼真にしかわ りようま

(22)

奏美の弟。圭史に殺される

1.

廃墟・廊下（昼）

郊外にある研究所跡地。窓から日が差すだけの薄暗い廊下。

ハイヒールの音が響く。

城谷圭史（35）、顔をあげる。眼鏡でスーツ姿。

西川奏美（32）、立ち止まる。全身黒づくめ。サングラスをかけている。

城谷 「それ（自分の眼鏡を叩いて）、いらなくね」

奏美 「アンタに見せる顔なんてない」

城谷 「どういう意味だよ」

奏美、城谷の頬に触れ、眼鏡を押し上げる。

奏美 「自分を殺す相手の顔なんか見たいわけ？」

奏美の逆の手にはナイフが握られている。

城谷 「見たいよ」

城谷、頬を擦りつける。

城谷 「会いたかった」

奏美、指先を残して、ゆっくり離れる。

城谷、歩き出す。

奏美 「どこ行くの」

城谷 「廊下じゃ雰囲気ないからな」

奏美、ナイフをしまう。

城谷の後に続く。

2.

廃墟・所長室（昼）

机と椅子、家具だけ置き去りにされた広い部屋。大

きな窓から海と港町が見える。

城谷、窓を開ける。

城谷 「あの海、覚えてるか？」

奏美 「忘れるわけないでしょ」

城谷 「だから、ここにいた」

城谷、椅子に座る。

スーツのボタンを外し、ネクタイにも手をかける。

奏美 「ちょ、なんで脱ごうとしてんのよ」

城谷 「服、邪魔だろ。脱いだほうが刺しやすい」

奏美 「バカ。まだだから」

奏美、緩んだネクタイを直す。

城谷、奏美を愛しそうに見つめる。

奏美 「なんで、涼真を殺したの」

城谷 「仕事だからな」

奏美、城谷を突き飛ばす。

城谷 「おっと」

奏美 「涼真はアンタに憧れてたのに」

城谷、へらっと笑う。

奏美、目を閉じる。

3.

（回想）・公園（夜）

1年前。広い公園内の雑木林。

奏美、走りながら電話をしている。

奏美 「涼真、どこ！？ どこななの!？」

男物のリュックが落ちている。

リュックを拾い、周囲を見渡す。

入れ墨の入った金髪の男・西川涼真（22）が血ま

みれで倒れている。

奏美 「涼真!」

頬を何度も叩くが、反応はない。

奏美 「嫌。なんでっ」

涼真を強く揺する。

涼真の手からスマホが滑り落ちる。

奏美と通話中のまま。

奏美、通話を切り、履歴を見る。

30分前に城谷との履歴。

リダイヤルする。

城谷の声 「まだ生きてんのか。しぶといな」

奏美 「圭史」

城谷の声 「奏美」

奏美 「涼真が——」

通話が切られる。

再度リダイヤル。

着信拒否のアナウンス。
自分のスマホを取り出し、電話をかける。
やはり着信拒否。
奏美、声にならない叫び。

（回想終了）

4. 廃墟・所長室（昼）

奏美、目を開ける。

奏美 「弟を返してよ」

城谷 「それができたらよかったんだけどな」

城谷、微笑む。

奏美、せつなそうな表情。

奏美 「じゃあ、仕事、やめてよ」

城谷 「それも、無理だな」

奏美、顔を覆う。

城谷 「俺が叶えてやれるのは、これしかない」

城谷、深く座り直す。

手足を大きく広げ、刺しやすいように体を開く。

しかし、奏美は動かない。

城谷 「悪い。脱いでなかったな」

奏美、首を振る。

城谷、ため息。

城谷 「涼真は」

奏美、顔をあげる。

城谷 「組の情報を売ろうとした。一億でな」

奏美 「一億……」

城谷 「だから、殺すしかなかった」

奏美 「他の方法だってあるじゃない」

城谷 「あのなあ。盃、交わしてんだ。裏切りは即処刑だ」

奏美 「それでもっ」

城谷 「惚れた女の弟、殺したいわけないだろ」

城谷、奏美を見つめる。

奏美、サングラスを外す。

奏美 「圭史のこと、憎まない日はなかった」

城谷 「俺だって、後悔しない日はなかった」

奏美 「でも、連絡が来たときは……嬉しかった」

ふたりは見つめ合う。

奏美、ポケットに手を入れる。

城谷、背もたれにもたれかかる。

城谷 「最後に会えて、よかったよ」

奏美、ゆっくりと近づく。

城谷、目を閉じる。

奏美、城谷に触れる。強い衝撃。

城谷、力が抜ける。

× × ×

夕陽が差し込んでいる。

奏美、城谷の椅子に背を預け、床に座っている。手

にはスタンガン。

傍らには開封済のPTPシートと水。

奏美、目を閉じる。

海のさざめき。

奏美、城谷、涼真の笑い合う声。

5.

廃墟・所長室（夜）

城谷、目覚める。

部屋には城谷のみ。

何が起こったのかわからない様子。

体を探る。

胸ポケットに写真が入っていることに気づく。

取り出す。

海辺で撮った写真。

奏美と涼真が笑っている。

城谷、写真を見つめる。

サイレンの音。

城谷、窓へ。

廃墟に近づいてくるパトランプ。

城谷、奏美に電話をかける。

6.

ホテル・客室（夜）

ビジネスホテル。

白いバスローブ姿の奏美が窓辺に座っている。

奏美、廃墟へ向かうパトランプを目で追っている。

手にはスマホ。着信音。

しかし、出ない。

奏美、スマホをテーブルへ置く。

テーブルの上には薬袋。「不眠時」と書かれている。

奏美、薬袋を見つめる。

薬袋をテーブルに放り、ベッドに入る。

白い寝具に包まれる。

着信音が止まる。

奏美、苦しそうに目を閉じる。

海のさざめき。

（おわり）